

★自己紹介

- ・函館。夜景が綺麗なところ。コロナが収まったら、いろんな人に来て欲しい。
- ・石川。自然的の観光資源が多くて温泉が多い。コロナが落ち着いたら来てほしい！
- ・大阪。USJが近い。コロナの影響で外国人が減ったが、Gotoで家族連れがUSJに。
- ・佐賀。バルーンフェスタや吉野ケ里遺跡とがイカがとてもおいしい。
→ICTでは県立高校生にはパソコンが一人一台配布され、電子黒板がある。
- ・山口。安倍首相を始め、偉人が多い県。
→学校ではクロームブックが配布されていて、ICTを活用している。

★オンライン授業での問題点（生徒が直接記載）

- ・オンラインでの授業が行われていたが、実施されるのが遅かった。
- ・LIVEでの授業ではないので単位として扱われていない。
- ・設備が整っていない生徒は授業を受けられないなど学力格差が目立つ。
- ・質問がしにくい。
- ・各生徒の意識によって取り組み方に差が生じる。
- ・操作に気を取られ、学習に集中できない
- ・先生方も使い方に関して理解できておらず、混乱が生じた。
- ・オンライン授業では体育・音楽をはじめとする実技教科の実施が困難
→完全オンラインでの体育の授業がジャグリングやエクササイズなどの録画したりするので、結局体育の授業そのものより編集や撮影に時間がかかってしまう。
また、編集技術によりプレゼンテーションの差が出る。
- ・映像授業ではその先生の説明の合う・合わないが顕著に現れてしまう
- ・操作時間が長い手間がかかる
- ・話が盛り上がらない
- ・孤独感を感じる
- ・先生に質問しにくい
→数学などは細かい質問があって、それをオンライン上だけで先生に伝えるのが難しい。（伝わりづらい部分をまとめるのが難しい）
- ・他人の情報が入らないから不安になる。
→他の人がどの程度勉強しているかわからないから、どこまで勉強すれば良いか不安を感じてしまった。（リアルだと友達の進捗も見えて、安心感につながる）
- ・反応が伝わらない
- ・説明が難しい
- ・誤字が多く誤解を生む
→早くタイプしようと思って、相手への伝わり方が変わって誤解が生まれたりした。
- ・会話の終わりが分からない
- ・タイムラグがある。
- ・通常での授業と違いMeetでは意思疎通が難しい

- ・先生によってICT活用度に差がある
- ・実技授業はオンラインではできない（そういうのは記入課題が出された）
- ・文字入力では誤字脱字が多く、かつ感情が伝わらないので個々での解釈が異なる
- ・オンライン授業が一部でしか実施されていないため進度に差がある
- ・対面授業がないため質問して理解を深めることができない

★それぞれの学校での授業はどのような感じ？

- ・学校から支給されたアイパッドが配布されていて、それを活用して課題を進める。
- ・BYODでコロナ前からICTを活用していたので、場所が家になっただけ。
- ・一人一台のデバイスだが、何のツールを授業で使うか試行錯誤だった。
 - ・画面が止まったり、授業が円滑にすすめることができなかった。
- ・Chromebookを使ってClassroomにアクセスし、Meetでの遠隔授業やドキュメントやアンケート(?)での課題配信・動画配信による授業があった。

★各地域で体育などの物理的な授業はどうだった？

→主要5教科ですすめる。（主に座学）

→商業系の授業は先生からデータを配布されてやっていた。

→ドキュメントでの課題配信が行われ、実際に運動する事はなかった

————以降、ファシリテートを生徒にバトンタッチ————

S：影響力のあるイベントが少ないが、iPadを配ろうなどの提言よりも社会の仕組みのような提言ができれば良いなと思っている。

S：利便性を高める必要はなく、安全を重視するような提言が良いんじゃないか？

S：設備については整っている印象を受けるが、地方の公立高校では進んでいないなども聞いている。設備を整えるのも重要だが、それらをどう活用するか。（高校生にとってプラスになるかを考える必要がある。

★各地域の提言を一言で表すと？

S：各地域の提言を一言でまとめて、そこから大きなトピックを決めたい。

- ・ICTを導入したあと、どう活用するかをの提言。
- ・学校をコミュニケーションの場所や協調性を学ぶ場所にする提言。
- ・生徒にデバイスを配るだけでなく、全国共通のアプリ等で一般化することを提言。
- ・海外とのやり取りもあったりするが、「安全性」を提言。
- ・国内はICTの活用が進んでない。→まず外国のようにICTの活用をすすめる事を提言。

★この議論をすすめる上でこうしたい！

S：生徒同士でしゃべる時はフランクにすすめたい。

S：敬語なしでリラックスして進めよう！

★全国共通で使えるアプリを作る？

日本全国共通でのアプリを作る部分に共感出来た。

- ・使う側の安心材料として、大学との提携や広告などで利用者に安心感をもたせる。
- ・映像授業？出版社のデジタル教科書？
 - ・それぞれの学校の卒業後の進路や特色もあるが全国展開して大丈夫？
- ・機材はどうする？
 - ・政府から学校に対して配る？→それが現状は出来ていないのでは？
 - ・教科書の印刷代等などで経費が浮くからそのお金をデバイスに回す？
 - ・全てをデジタル化するのが良いのか？
 - ・それぞれの教科による個性もあるので、そこも考える必要がある。
 - ・そのアプリだけで学校がサポートするのは難しいのではないかと？
 - ・政府が公式！っていうのがないから、TryItやベネッセに流れる。

★実際の学校と在宅学習の使い分け

- ・学校での活動と在宅での活動を分けるっていうのは？
 - ・家では5教科をオンラインの映像授業と課題提出をオンラインで。
 - ・学校では、体育音楽などの実技を伴う教科を行う。
 - ・学校で先生に不明点などを聞けるようにするのが良いのではないかと？
 - ・オンライン学習だと個人の意思によって取り組み方が変わる。
 - ・結果、個人差が出てくるのではないかと？
 - ・逆に先に先にどんどん進める人は、オンラインだと先に進める事が出来る。
 - ・レベルの合ったクラスをアプリ内で選択肢、進める事ができるので、オンラインの方が効率が良いのではないかと？

★オンライン学習とリアルな学校の意義

- ・大学の新卒生に求められる能力に、協調作業やコミュニケーション能力があげられる。
 - ・そういった部分を学校で身に付けられるのではないかと？
- ・アクティブラーニング等も世間一般で話題になっている。
 - ・そういったことも踏まえて実際の学校も必要である。
- ・家ではリラックスして、学校でガッツリ勉強する。などメリハリをつける等が必要。
- ・オンライン学習だと周囲とコミュニケーションを取る事が不可能に近い。
 - オンライン学習は家での復習に当ててはどうか？
- ・学校で受けた授業の復習や、授業内での資料提示用として活用するのが有意義では？
- ・ICTは勉強だけでなく多面的に見て、レポート提出とか発表用とかに活用し極端にオンライン縛る必要は無いのではないかと？

★政策としてどのようなICT活用方法をどう考えるべきか？

- ・ICTは効率がよくなるというのが一番大きなメリット。
 - ・書くより打った方が早い。修正が用意。。。など
 - ・デジタルデータでの入力での思考能力が失われるのではなく、

同じ時間を使うなら手書きより効率が良い。

- ・実際にICTをフル活用だが、書くことを忘れるとかは無いと感じている。
- ・入試制度（手書きの今の制度）とデジタル記入がリンクしていない。
- ・企業側が求める能力と現行の入試制度などもリンクしていないのはそう思う。
→全体を変えるのではなく少しずつ変えていく。
→思考能力だけでなく、専門的な知識を重要視する企業もあると思われる。
- ・コロナ禍の中では勉強ばかりでなく、文化祭などでの利活用が活用もするべき。

★どう活用するか？

- ・広すぎるので、もう少し範囲を絞った内容にしてはどうか？
- ・制度が追いついていないので、そこを深堀りしたい。
- ・具体的に追いついていない部分は？
- ・入試制度や企業が求めている能力とのミスマッチ。
- ・学校と在宅での学習内容の区別をつける。
- ・大人が出来ない部分にスポットを当てて深堀りしたい。
- ・制度は大人も今考えているだろうから。。。
- ・登校が難しい子にもICTを活用して楽しく活用出来る方法を深堀りしたい。
- ・ICTの活用には前向きではなく、動画サイトで授業と関係ないサイトを見たり、スマホなどを触っていたりで賛成できない。
- ・全国統一のアプリを深堀りしたい。（全く新規アプローチのアプリの話をしたい）
- ・全国統一でアプリを使うときに各学校での特色を失わせないようにどうするか？
→統一のシステム以外に、各学校でカスタム出来るようにすれば各学校の特色を失う事は無いのではないか？
- ・カスタムできるなら特に新規に使う必要は無いのでは無いかな。
→今でも教育各社から様々なツール等が提供されている。
- ・アプリが違っていると、機能面での違いが出る。
- ・全国統一にすると、全国でどのレベルにいるかの目安出来るので良い。
- ・実際に世界中のインターナショナルスクールと統一のシステムを使って活用してたりするので、国内でもそのようにするのが良いのではないかな。
- ・学校の特色（工業、商業、英語特化。。。など）の維持方法
- ・アプリの立ち位置としては、他の学校の人と比べたいときに使う。
- ・アプリ自体が教育の基盤になるわけではない。
→なので、学校の特色も失われない。
- ・世間一般の中での自分のレベルを見るための補助的な存在としてのアプリ。
- ・今あるベネッセとかとは何が違う？
→コンテンツ提供企業によって、表記が違ったりコンテンツ内容に微妙に差がある。（コンテンツが政府公認になるので安心も出来るのでは無いかな。）

★学習コンテンツの作成方法等について

- ・政府主体でコンテンツを作る際に、特定のコンテンツ動画ではなく複数の教員により

教材をを作り、生徒側が選べるようにする。

- ・今のベネッセ等の教育コンテンツ提供企業が提供しているサービスとの違いは？
- ・汎用デバイスを使うと、娯楽への転用されてしまうのでHW開発からして制限を設けて作るのはどうでしょうか？

★制度の話をしてはどうでしょうか？

- ・大学入試改革などを行うと言いながらも、高校生が振り回されているだけではないか。
- ・ICT技術の発展だけが先行してしまい、今の制度が追いついていない。
ex. 大学入試は未だに書いて表現をする。⇔学びは映像などを見て行う。
- ・これからの社会求められる力は何か？
- ・解決する方法としては
- ・AO入試や推薦入試など新しい方法を広げていくことはどうだろうか。